

楫屋一之

世田谷パブリックシアター 劇場部長

トヨタ コレオグラフィーアワード2014・最終選考会について

6人のファイナリストの振付作品を観終えて、わずか4、50分で議論を尽くすことにはあらかじめ限度があり、予定の時間を大幅に超える審査会となりました。審査委員の評価は当初より分かかれ、全会的に圧倒的な支持を得る振付家はいませんでした。川村美紀子さんについては、今回の選考会に合わせた振付・構成と捉えられ、これまでの作品と比較していささかトーンダウンしたものと受け止められました。木村玲奈さんは丁寧で緻密な作品創りをしているとして、複数の審査委員から強く推す声が挙がりました。スズキ拓朗さんの振付はエンタメ性も加味され、よくまとまった観やすさを形作って居り、オーディエンス賞を取るのではないかと予測されました。協議はまとまる方向には向かわず、数度の採決の結果、常に上位にいた川村美紀子に“次代を担う振付家賞”を授賞することに決定しました。個人的には、振子ぴじんさんに時代の感覚を捉える繊細な身体的可能性を感じ取りました。今後の彼の動きに大いに期待するところです。

2014/09/10